

研究課題	ケイトウの夏秋期安定出荷栽培試験
背景・ねらい	従来、ケイトウは盆・秋彼岸に大きな需要がある重要な花卉品目であったが、近年では周年で使われる花材となっている。本試験では、盆・秋彼岸出しを含めた連続出荷の可能性について検討する。
担当者	山口 次郎, 渡邊 智之, 船木 武人, 渡邊 一彦
研究期間	2019～(2年目)

1 目的

盆・秋彼岸を含めた夏秋期の安定出荷および品質向上を図るため、各時期における品種特性を調べることを目的とする。

2 方法

(1) 供試品種 (10 品種)

アクトシリーズ：グリーン，オレンジ，イエロー，ベルベット，ローズ<ムラカミシード>
 久留米：フィジーラブ，オレンジクイーンインプ <ミヨシ>
 デリーシリーズ：パープル，パール，レッド <ミヨシ>

(2) 試験区の構成・規模

要因	水準数	水 準			
播種期	4	4月上旬	5月上旬	6月上旬	7月上旬

各品種 72 株 (36 株×2 反復)

(3) 耕種概要

- ア 試験圃場：パイプハウス (砂土)
- イ 播種・定植：播種 (4月8日, 5月11日, 6月10日, 7月8日)
 定植 (5月11日, 6月1日, 6月30日, 7月22日)
- ウ 栽植様式：畝幅 80 cm, 条間 12 cm, 株間 12 cm, 6 条植え (7 条中央部灌水チューブ)
- エ 施肥：基肥なし, 追肥 適宜状況をみて液肥 (N-P₂O₅-K₂O=8-6-5) で施用
- オ 電照：7月播種区のみ定植時から9月14日まで (日没から PM10 時までの日長延長)

(4) 調査項目

採花日, 採花本数, 切花長, 花径, 茎径, 節数, 切花重, 奇形花率

3 結果の概要

- (1) アクトシリーズは (図 1), 6 月播種区まで到花日数は 4 月・5 月の 90 日台をピークに緩やかに減少していたが, 7 月は電照を行ったため 100 日台となった。切花長は右肩上がり伸びる傾向にあり, 切花重はおおよそ右肩上がりのパターンを示した。奇形花は, グリーンでの発生が比較的少なく, ローズで多くみられた。全品種で共通して, 4 月は石化以外の奇形が多くみられ, 6 月は奇形花の発生がごくわずかであった。花径は全播種区を通じて 12 cm 以上となった。
- (2) 久留米系は (図 2), いずれも到花日数が 5 月を最短, 7 月を最長とした V 字型のパターンを描いた。切花長は 6, 7 月に伸びる傾向があり, 電照の影響もあり 7 月は 200 cm を超えた。花径はオレンジクイーンは 4 月の 9 cm を最大として 7 月の 4.4 cm まで右肩下がりのパターンを描いたが, フィジーラブは播種月により大きさがバラバラであり, 特定の傾向はみられなかった。奇形は全て石化であり, 特に 4, 5 月に多くみられた。
- (3) デリーシリーズは (図 3), 6 月播種区で到花日数が最短となり, 4 月・5 月播種区をピークとした V 字を描いた。到花日数差は最大で 32.1 日と, 最も大きくなった。切花長などの形質はパープルとパールは到花日数と同様の推移をし, レッドは他 2 つとは異なるパターンを示した。
 花径は播種月ごとに変動が大きく, パープルとパールは 5 月が最大となり, 7 月が最小となったが, 逆にレッドは 7 月が最大, 5 月が最小となった。奇形花は, 4, 5 月には石化が多くみられ, 6, 7 月は石化以外の奇形花が多くみられた。

4 まとめ

到花日数は、前年は4月から7月に向けて短くなるパターンを示したが、本年は7月に電照を行ったことが影響し、デリーシリーズ以外は7月播種区が最長となった（播種期別の平均採花日は図4に示した通りとなった）。

切花長は、デリーシリーズはおおむね到花日数が長くなると切花長も伸びる傾向がみられたが、アクトシリーズと久留米系は到花日数に係わらず4月から7月に向けて右肩上がりのパターンを描いた。

花径は、産地においてトサカ系品種の秀品規格を10～13 cmとしており、本試験ではデリーシリーズは4～11 cm台と規格に達しなかったが、アクトシリーズは12～14 cm台となり、規格を満たした。そのため、同じトサカ系であっても系統や品種ごとに施肥を含めた耕種の変更が必要となる。

生育は全体的に良好であったが、奇形花（ここでは石化以外をいう）の発生が確認された（図5）。産地では、規格外となるものや奇形の目合わせは行っていないものの、程度が著しいものは出荷対象外や規格落ちの対象となるため、なるべく発生を抑えたいが、奇形花となる要因が不明であり対処が難しい。播種月により発生率が大きく異なるため、気温が関係している可能性が考えられるが判然としない。

4月・5月播種区については、電照等による2番花採花の可能性を検討したが、切り下からの芽の揃いが悪いため、仕立てる本数にバラツキが大きく、作業性等を考慮すると現実的ではないと考えられる（節間の間隔が長いアクトシリーズで特に芽揃いが悪かった）。

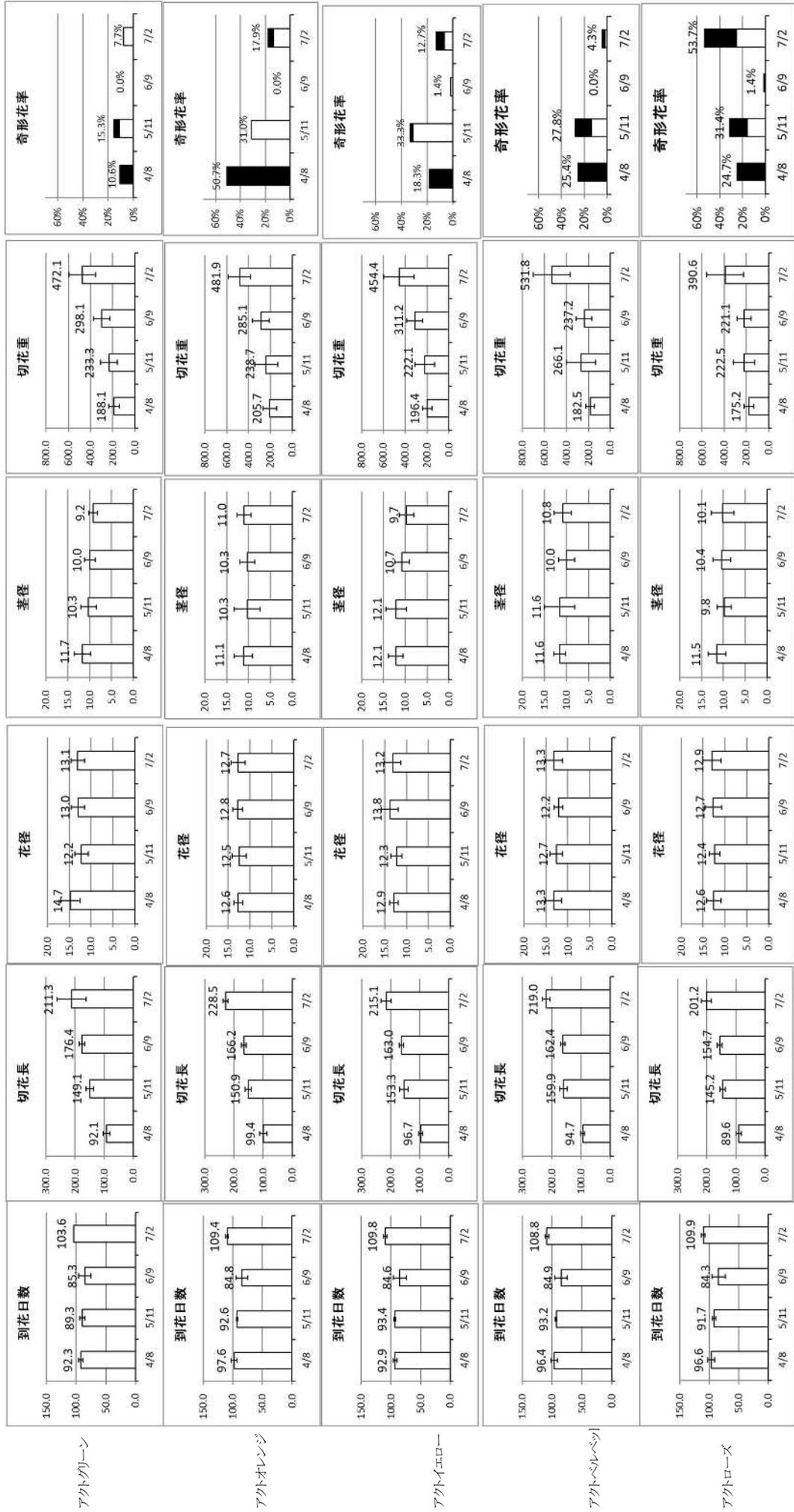
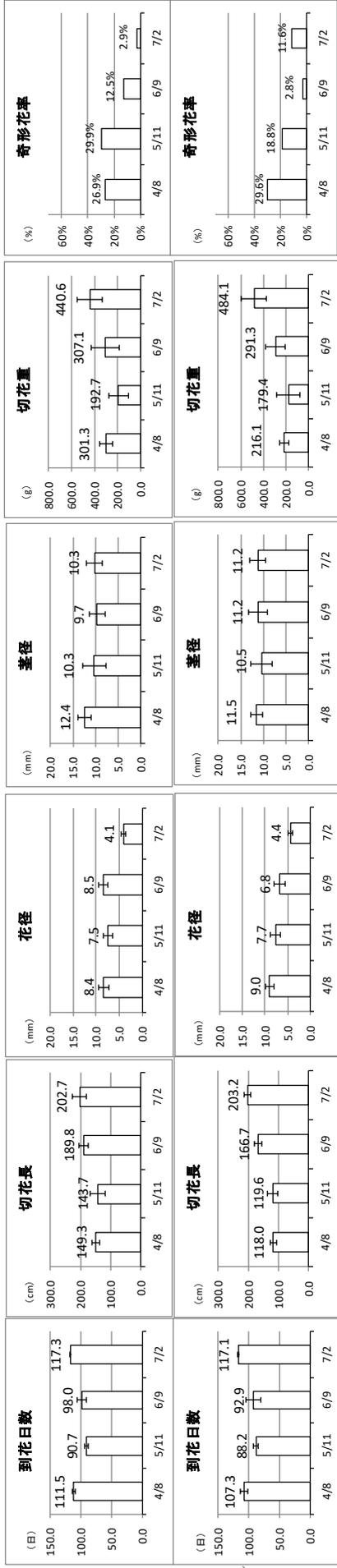
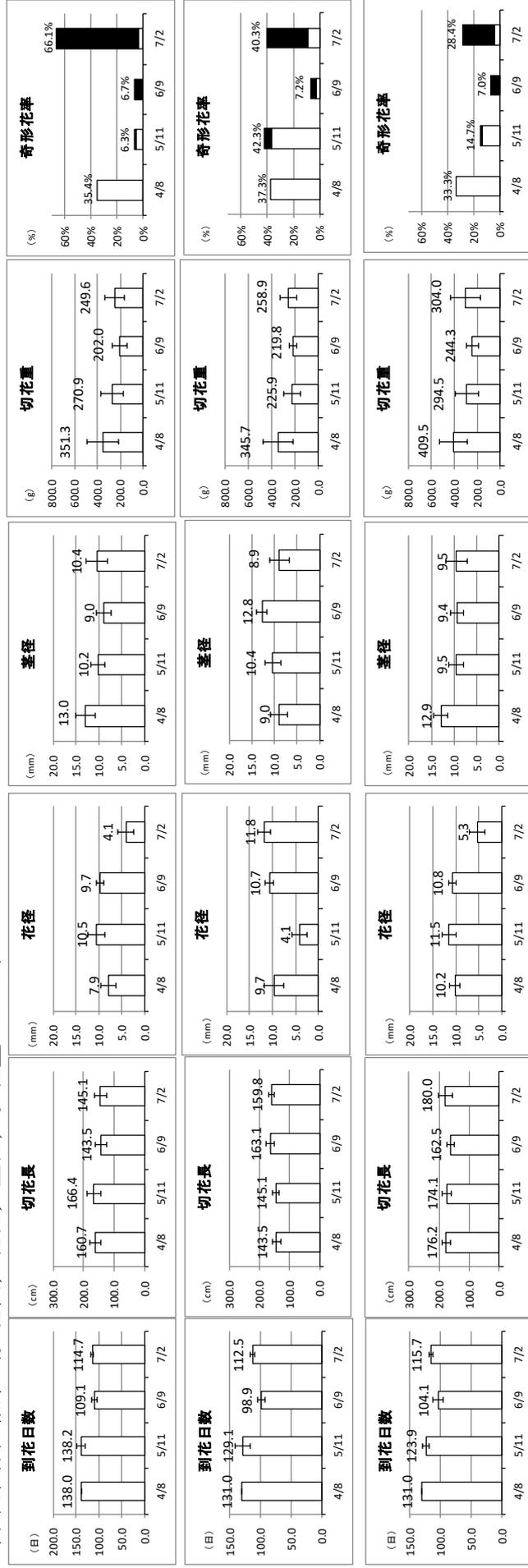


図1 アクトシリーズ各種結果 (切花長, 花径, 茎径, 切花重: n=10)



□ 石化 ■ 石化以外の奇形

図2 久留米系各種結果 (切花長, 花径, 茎径, 切花重: n = 10)



□ 石化 ■ 石化以外の奇形

図3 デリーシリーズ各種結果 (切花長, 花径, 茎径, 切花重: n = 10)

